

大 分 県

森林環境税の取組み実績

平成26年度の事業概要

農林水産部 森との共生推進室

目 次

森林環境税の概要	1
森林環境税の積立・執行状況	2
平成26年度森林環境税活用事業一覧表	3

I 災害に強く、生物多様性に配慮した森林の整備

1. 荒廃人工林緊急整備事業	4
2. 竹林環境改善整備事業	7
3. 魅力ある景観づくり推進事業	10
4. 県営都市公園里山利活用推進事業	11
5. 森林シカ被害防止対策事業	12
6. おおいた生物多様性保全事業	
(1) 奥山地域植生等調査事業	13
(2) 絶滅危惧種保護活動事業	14
7. 森と海をつなぐ環境保全推進事業	
(1) 上下流域住民等による海岸漂着流木処理活動	16
(2) 流木等被害対策緊急防除事業	17
8. 世界農業遺産関連調査事業	18

II 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用

1. 再造林促進事業	20
2. 県産竹材利用促進事業	21
3. 竹工芸品海外販路開拓事業	23
4. 竹産業振興対策事業	25
5. 竹林伐採・竹材活用促進事業	26
6. スギ丸太等海外輸出促進事業	27
7. 地域材活用住宅建設促進事業	28
8. CLT普及支援事業	29
9. 障がい者福祉施設整備事業	30

III 県民参加の輪を広げ、次世代へつなぐ取組

1. 森林づくりボランティア活動促進事業	31
(森林づくり提案事業一覧表)	34
2. 森林環境教育推進事業	
(1) 森の先生派遣事業	37
(2) 名樹とのふれあい事業	38
(3) 次代の森林づくり活動リーダー育成研修支援事業	39
(4) おおいた木のおもちや展推進事業	40
(5) 木材産業普及啓発事業	
3. 子育て自然体験促進事業	41
4. タデ原湿原木道整備事業	42
5. 森林環境学習指導者活用事業	43
6. ごみゼロ探検団推進事業	44
7. 豊かな水環境創出事業	45
8. 観光行政事務指導費	46
9. みんなで支える森林づくり推進事業	47
10. おおいたの森林づくり広報推進事業	49
11. 新たな育林技術等研究開発事業	50

森 林 環 境 税 の 概 要

1 森林環境税導入の目的

森林環境の保全と、森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成のための施策に必要な財源を確保するため、平成18年度から県民税の特例として森林環境税を導入した。

2 森林環境税の概要

- 期 間 税の特例期間：5年
第Ⅰ期：平成18年度～平成22年度
第Ⅱ期：平成23年度～平成27年度
- 税 額 個人…年額 500円
 法人…年額 1,000円～40,000円 （法人県民税（均等割額）の5%）
- 税 収 単年度 約3億2千万円
- 管理・運営 ・徴収した税は「森林環境保全基金」に積立て、他の事業と区別し活用
 ・基金の適正な運用を図るため、第三者機関「大分県森林づくり委員会」を設置し、事業の審査や成果の検証等を実施

3 森林環境税の使途

下記のテーマに沿い、荒廃した森林の整備や、再造林の推進、木材の需要拡大、県民が自ら提案し実行する森林づくりの支援、森林ボランティア活動の推進等の事業を実施

<第Ⅰ期 平成18年度～平成22年度>

テーマ：県民主導、個性豊かな取組、多くの県民が参加する仕組みづくり

- Ⅰ 県民意識の醸成
- Ⅱ 環境を守り災害を防ぐ森林づくり
- Ⅲ 持続的経営が可能な森林づくり
- Ⅳ 遊び、学ぶ森林づくり

<第Ⅱ期 平成23年度～平成27年度>

テーマ：県民生活を守り、地球環境保全につながる森林づくり

- Ⅰ 災害に強く、生物多様性に配慮した森林の整備
- Ⅱ 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用
- Ⅲ 県民参加の輪を広げ、次世代へつなぐ取組

4 全国の森林環境税導入状況

大分県は全国で9番目に導入した。平成27年5月現在、35県が導入済み。

森林環境税の積立・執行状況

<第Ⅰ期> (H18～H22)

1. 森林環境税の積立状況

(千円)

	H18	H19	H20	H21	H22	合計
基金積立額	200,781	295,120	309,363	306,987	302,495	1,414,746

2. 森林環境税の執行状況

(千円)

区分	年度別実績						
	H18	H19	H20	H21	H22	合計	割合(%)
I 県民意識の醸成	23,264	38,986	41,034	37,477	28,075	168,836	14
II 環境を守り災害を防ぐ森林づくり	77,325	110,919	102,612	137,995	195,344	624,195	51
III 持続的経営が可能な森林づくり	39,740	69,371	78,595	78,595	87,154	353,455	29
IV 遊び学ぶ森林づくり	14,706	23,231	22,150	14,729	11,027	85,843	7
合計	155,035	242,507	244,391	268,796	321,600	1,232,329	100

<第Ⅱ期> (H23～H27)

1. 森林環境税の積立状況

(千円)

	H23	H24	H25	H26	H27	合計
基金積立額	304,011	305,745	307,590	306,164	—	1,223,510

2. 森林環境税の執行状況

(千円)

区分	年度別実績						
	H23	H24	H25	H26	H27	合計	割合(%)
I 災害に強く生物多様性に配慮した森林の整備	165,192	160,790	133,267	151,271	—	610,520	46.5
II 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用	151,090	105,251	142,308	93,772	—	492,421	37.5
III 県民参加の輪を広げ次世代へつなぐ取組	46,050	45,447	56,115	61,921	—	209,533	16.0
合計	362,332	311,488	331,690	306,964	—	1,312,474	100

<第Ⅰ期、第Ⅱ期の合計>

(千円)

	第Ⅰ期	第Ⅱ期	合計
基金積立額	1,414,746	1,223,510	2,638,256
執行額	1,232,329	1,312,474	2,544,803

※基金積立額は、税収から市町村の徴収に要する経費を引いたもの

平成26年度 森林環境税活用事業一覧表

…新規事業

施策区分		事業区分	事業費 (千円)	担当課室
Ⅰ 災害に強く、 生物多様性に 配慮した森林の 整備	1 荒廃森林の機能回復	1 荒廃人工林緊急整備事業	36,474	森林整備室
		(1) 災害に強い森林づくり推進事業	31,796	
		①流木被害森林緊急整備事業 (H25～)	28,340	
		②間伐放置林等緊急整備事業 (H18～)	3,456	
		(2) 再造林放棄地緊急整備事業 (H18～)	4,678	
	2 荒廃里山林の整備と 利活用	2 竹林環境改善整備事業 (H22～)	28,726	森との共生推進室、林産振興室
		3 魅力ある景観づくり推進事業 (H25～)	9,743	景観・まちづくり室
		4 県営都市公園里山利活用推進事業 (H26～)	2,285	公園・生活排水課
	3 獣害対策の推進	5 森林シカ被害防止対策事業 (H20～)	65,779	森との共生推進室
		6 おおいた生物多様性保全事業 (H22～)	2,798	生活環境企画課
	4 森・川・海をつなぐ 流域環境の整備	7 森と海をつなぐ環境保全推進事業	2,397	
		(1) 上下流域住民等による海岸漂着流木処理活動 (H18～)	1,822	廃棄物対策課
		(2) 流木等被害対策緊急防除事業 (H19～)	575	漁業管理課
		8 世界農業遺産関連調査事業 (H26～)	3,069	研究普及課
計			151,271	
Ⅱ 低炭素社会に 向けた森林資源 の確保と循環利 用	1 健全な人工林資源の 再生	1 再造林促進事業 (H22～)	66,600	森林整備室
	2 未利用資源の有効 利用	2 県産竹材利用促進事業 (H21～)	2,943	工業振興課
		3 竹工芸品海外販路開拓事業 (H25～)	3,800	商業・サービス業振興課
		4 竹産業振興対策事業 (H24～)	80	林産振興室
		5 竹林伐採・竹材活用促進事業 (H26～)	521	雇用・人材育成課
	3 木材の需要拡大	6 スギ丸太等海外輸出促進事業 (H21～)	8,570	林産振興室
		7 地域材活用住宅建設促進事業 (H23～)	2,073	
		8 C L T普及支援事業 (H26～)	1,390	
		9 障がい福祉施設整備事業 (H26～)	7,795	障害福祉課
	計			93,772
Ⅲ 県民参加の輪を 広げ、次世代へ つなぐ取組	1 森林ボランティア 活動の推進	1 森林づくりボランティア活動促進事業	25,226	森との共生推進室
		(1) 森林づくりボランティア支援センター事業 (H18～)	3,574	
		(2) 森林ボランティア活動支援事業 (H18～)	415	
		(3) 森林ボランティア技術向上事業 (H18～)	1,857	
		(4) 企業参画の森林づくり推進事業 (H19～)	1,033	
		(5) 森林づくり提案事業 (H18～)	18,347	
	2 森林環境教育・木育 の推進	2 森林環境教育推進事業	7,239	森との共生推進室
		(1) 森の先生派遣事業 (H19～)	4,031	
		(2) 名樹とのふれあい事業 (H25～)	1,800	
		(3) 次代の森林づくり活動リーダー育成研修支援事業 (H24～)	700	
		(4) おおいた木のおもちゃ展推進事業 (H26～)	459	
		(5) 木材産業普及啓発事業 (H26～)	249	林産振興室
		3 子育て自然体験促進事業 (H25～)	1,096	こども子育て支援課
		4 タデ原湿原木道整備事業 (H26～)	7,000	景観・まちづくり室
		5 森林環境学習促進事業 (H18～)	2,917	社会教育課
		6 ごみゼロ探検団推進事業 (H26～)	3,063	地球環境対策課
	3 森林整備への理解と 参加を広げる活動	7 豊かな水環境創出事業 (H26～)	7,983	環境保全課
		8 観光行政事務指導費 (H26～)	986	観光・地域振興課
		9 みんなで支える森林づくり推進事業	3,876	森との共生推進室
		(1) 豊かな国の森づくり大会の開催 (H18～)	2,178	
		(2) 新たな森林づくり推進体制整備事業 (H18～)	1,698	
	4 森林づくりに繋がる 新たな取組の支援	10 おおいたの森林づくり広報推進事業 (H18～)	1,778	
		11 新たな育林技術等研究開発事業 (H18～)	757	森との共生推進室
計			61,921	
合 計			306,964	

I－1 荒廃人工林緊急整備事業

【森林整備室】

1 実施主体

6 森林組合、5 市町

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

平成24年7月の九州北部豪雨災害では、河岸の浸食により、河川沿いの手入れ不足の人工林の木が流木となり、下流域に被害を及ぼした。

また、尾根部や急傾斜地等の木材生産に適さない人工林では、長年間伐を実施していない間伐放置林や、皆伐後に再造林せずそのまま放置する再造林放棄地が発生し、災害発生防止等の機能が低下している。

(2) 目的

河川沿いの流木発生の危険性が高い森林や、間伐放置林及び再造林放棄地等の荒廃人工林を対象に森林整備を行い、災害発生防止等の公益的機能が発揮できる森林に誘導する。

(3) 事業内容

①流木被害森林緊急整備事業

河川沿いの流木発生の危険性の高い森林を対象とした更新伐・林内整備による自然植生の回復・広葉樹林化

②間伐放置林等緊急整備事業

災害の発生が懸念される間伐放置林等の強度間伐による針広混交林化等

③再造林放棄地緊急整備事業

災害の発生が懸念される再造林放棄地の植栽及び下刈りによる自然植生の回復

3 成果

①流木被害森林緊急整備事業

伐採率40%以上の更新伐と林内整備を行うことにより、林内が明るくなり自然植生の回復・広葉樹林化が促進された。

〈更新伐〉

年度	H25	H26	H27	計
計画	57ha	43ha	50ha	150ha
実績	57ha	42ha	—	99ha

②間伐放置林等緊急整備事業

40%の間伐により林内が明るくなり、早期に自然植生の侵入により針広混交林化を促進し、表土の流出を抑えることで、公益的機能を高めることができた。

〈間伐〉

年度	H23	H24	H25	H26	H27	計
計画	50ha	150ha	25ha	25ha	10ha	260ha
実績	45ha	145ha	13ha	16ha	—	219ha

③再造林放棄地緊急整備事業

広葉樹の植栽を行うことにより、早期に災害に強い森林の造成を行った。

〈植栽〉

年度	H23	H24	H25	H26	H27	計
計画	5ha	5ha	4ha	5ha	2ha	21ha
実績	13ha	3ha	3ha	3ha	—	22ha

〈下刈〉

年度	H23	H24	H25	H26	H27	計
計画	106ha	111ha	72ha	52ha	36ha	377ha
実績	53ha	47ha	34ha	20ha	—	154ha

4 今後の課題と取組

これまでの取り組みに加え、流木被害森林緊急整備事業の事業主体に森林組合を追加し、災害に強い森林づくりを更に推進する。

5 実施状況写真

① 流木被害森林緊急整備事業



事業実施前



事業実施後

② 間伐放置林等緊急整備事業



間伐実施前



間伐実施後

③ 再造林放棄地緊急整備事業



災害発生の危険性のある再造林放棄地が対象



再造林を行った森林の様子

I - 2 竹林環境改善整備事業

【森との共生推進、林産振興室】

1 実施主体

市町村、大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

竹材、タケノコ需要量は外国産や代替品等の台頭により減少し、放置竹林が増加している。また、放置竹林は周辺に面積を拡大し生活環境の悪化、生態系の単純化、土砂崩壊防止機能の低下などを招いている。

(2) 目的

1. 県土の保全と良好な景観を確保するため、主要観光地周辺や幹線道路沿線及び集落周辺の鳥獣害対策が必要な箇所における荒廃竹林の伐竹整備、広葉樹林への転換等を推進する。
2. 竹材、タケノコ生産地として持続的管理が見込める荒廃竹林の再生を推進する。

(3) 事業内容

① 広葉樹林化

荒廃竹林を広葉樹林に転換するために必要な伐竹整備、広葉樹植栽、再生竹除去等を実施。

② 大分空港道路竹林整備

大分空港道路沿線の荒廃竹林について、景観改善の目的で伐竹整備、広葉樹植栽を実施。

③ 優良竹林化

竹材、タケノコ生産として活用するため荒廃竹林の伐竹整備及び作業路の開設を実施。

3 成果

荒廃竹林を整備することで、景観の改善が図られた。また、タケノコ・竹材生産等の利活用を促進し持続管理を図るための竹林整備を実施できた。

① 広葉樹林化

(ha)

市町村	H24	H25	H26
由布市	2.01	1.65	0.80
竹田市		0.35	0.22
日田市	0.25		
計	2.26	2.00	1.02

② 大分空港道路竹林整備

(ha)

	実施主体	H25	H26
民有地	杵築市	0.77	0.97
県有地	大分県	2.20	0.51
計		2.97	1.48

③優良竹林化

	管理方法 (ha)		計	簡易作業路開設 (m)
	タケノコ生産	竹材生産		
別府市	0.72	0.60	1.32	
杵築市	2.52		2.52	410
国東市	0.85	0.50	1.35	
日出町	0.12		0.12	
九重町	0.19		0.19	
玖珠町	0.33		0.33	
日田市	2.25		2.25	320
臼杵市	2.45	0.46	2.91	400
竹田市	1.28		1.28	726
豊後大野市	0.54	1.32	1.86	
豊後高田市	2.59	0.33	2.92	1,150
計	13.84	3.21	17.05	3,006

4 今後の課題と取組

これまでの取組に加え、竹材の新用途を開発することで、竹林整備の促進を図りたい。

5 実施状況写真

①広葉樹林化



【実施前】



【実施後】



②大分空港道路竹林整備



【実施前】



【実施後】

③優良竹林化



【実施前】



【実施後】



【簡易作業路の開設状況】

I－3 魅力ある景観づくり推進事業

【景観・まちづくり室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

近年、中高年世代を中心として登山やオルレ・ロングトレイル愛好者が増加しており、大分の自然観光資源を満喫できる長距離自然歩道等に対するニーズが高まっている。

一方、整備から相当年数が経過し、歩道の荒廃、施設の老朽化が進んでおり、その魅力を十分に生かし切れていない状況である。

(2) 目的

九州自然歩道のうち、特に魅力の高い8コース及びくじゅう連山登山道など、利用者が多く見込まれるルートを中心に整備することで、県民が、県内の自然により一層親しみ、その魅力を満喫する機会を提供するとともに、県外からも利用者を呼び込むことで観光振興への寄与を図る。

(3) 事業内容

- ①長者原園地内にある木道の改修を行った。
- ②牧ノ戸展望台にある東屋の改修を行った。
- ③九州自然歩道のうち牧ノ戸コース及び祖母山コースの歩道、標識等の整備を行った。

3 成果

老朽化した施設の改修、登山道の整備を行うことで、登山者の安全性を確保するとともに、利用環境の改善が図られた。

4 今後の課題と取組

九州自然歩道等の安全性や利便性を向上させるため、既存施設を保全するとともに、腐食や劣化が進行している施設の補強や改修等を適宜行う。

5 実施状況写真

九州自然歩道木道整備



九州自然歩道標識改修



I - 4 県営都市公園里山利活用推進事業

【公園・生活排水課】

1 実施主体

一般財団法人日本造園修景協会大分県支部（大分スポーツ公園分）
NPO法人エー・ビー・シー野外教育センター（ハーモニーパーク分）

2 実施事業の概要

（1）現状と課題

大分スポーツ公園には里山が、ハーモニーパークには竹林があるが、県民に利活用されていない。

（2）目的

県営都市公園の里山や竹林を利活用し、県民の自然体験や環境学習等の機会を設け、県民参加の里山や竹林の再生の推進と自然環境保全への意識を醸成する。

（3）事業内容

大分スポーツ公園の里山及びハーモニーパークの竹林を実施場所とした自然体験や環境学習等について、NPO等に企画・運営を委託して事業実施をする。NPO等の特性を生かしたきめ細やかな対応や自由な発想に基づく内容とする。

3 成果

大分スポーツ公園	1回目 7月26日(土)参加者 27人（申込 27人、受付 27人）
	2回目 11月8日(土)参加者 125人（申込 238人、受付 138人）
ハーモニーパーク	1回目 9月14日(日)参加者 52人（申込 111人、受付 61人）
	2回目 11月9日(日)参加者 13人（申込 113人、受付 63人）

4 今後の課題と取組

申込が多く全てを受付できなかったもので、来年度は回数を増やし規模を拡大する。受託団体によっては広報に不慣れなこともあるので、県が適切なサポートを行う。活動日が雨天の場合、当日不参加が多かったことから、予備日設定等の対策を行う。

5 実施状況写真

自然観察会



ネイチャークラフト



ネイチャーゲーム



竹の間伐体験



流しそうめん・竹食器づくり



竹料理（ねじりパン）



I-5 森林シカ被害防止対策事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

市町村等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

本県におけるニホンジカによる農林業被害は約6,700万円に上り、減少傾向にあるものの、依然として農林産物に対する深刻な被害が懸念される。また、以前は生息が確認されなかった阿蘇・くじゅう国立公園の草原地帯においてニホンジカの見撃情報や生息痕跡が確認されていることから、希少植物の食害等の生態系への影響が危惧される。

(2) 目的

シカによる森林生態系被害が県内各地で発生しており、森林の有する公益的機能の低下が危惧されている。このため、防護資材を設置し、林木への被害を防止する。また、シカの捕獲報償金事業により捕獲の強化を行いシカの生息頭数を適正な頭数まで減少させ、森林の有する公益的機能の維持増進を図る。

(2) 事業内容

種類		事業量
防護資材等の設置	簡易ネット	2,600m
シカ捕獲報償金事業		16,485頭

3 成果

簡易ネットの設置によるクヌギ萌芽の被害防止と捕獲報償金による捕獲強化によって森林におけるシカ被害対策を推進することができた。

4 今後の課題と取組

(1) 課題

依然として県内のシカの生息密度は適正密度より高い状況にあり、さらなる捕獲の推進が必要である。

(2) 取組

林木やしいたけ原木伐採後のクヌギ萌芽にシカ被害が発生していることから、防護柵の設置により被害を防止する。シカの生息頭数を減少させるため、捕獲報償金による捕獲強化に継続して取り組む。

5 実施状況写真



簡易ネットの設置例



ワナにかかったシカ

I-6-(1) おおいた生物多様性保全事業 (奥山地域植生等調査事業)

【生活環境企画課】

1 実施主体

大分県（大分県植物研究会に委託）

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

生物多様性の確保など生態系の中で重要な役割を果たしてきた野生鳥獣の一部が減少する一方で、ニホンジカなどによる農林業被害が発生しており、生物多様性や希少植物への影響が懸念されている。

(2) 目的

専門家による知見が不足する奥山地域において、ニホンジカによる植生の食害状況等を調査し、希少植物等の保全策を検討する。

(3) 事業内容

植生等調査、シカ防護柵実証試験、報告書作成

3 成果

平成26年度は日豊海岸国定公園において、ニホンジカの食害状況を含む植生の現況を調査し、食害の程度や植生変化の確認を行った。

また、過去に調査した祖母傾国定公園及び耶馬日田英彦山国定公園内に試験的に設置したシカ防護柵内のモニタリングを通じて、ニホンジカによる食害や植生に与える影響を検証した。

4 今後の課題と取組

引き続き食害の影響とその対策を検討するために、現に食害の見られる区域におけるシカ防護柵設置後のモニタリングを実施する。

5 実施状況写真

放棄畑地での忌避植物群落の形成



シカ食害のモニタリング調査



I-6-(2) おおいた生物多様性保全事業 (絶滅危惧種保護活動事業)

【生活環境企画課】

1 実施主体

大分県（大分県貝類談話会、NPO法人初島森林植物園ネットワーク、大分ため池データバンクに委託）

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

絶滅危惧種の保護活動は、各地域のNPO等によりボランティアで行われているが、資金や人手不足のために必ずしも意図するとおりの活動ができず、行政に対する支援の要望が強い。

(2) 目的

絶滅危惧種の保護措置をNPO等に委託し、当該団体の活動を支援することで、NPO・地元・行政が協働して行う保護活動が地域に根付き、継続・拡大していくことを目的とする。

(3) 事業内容

- ①オナガラムシオイガイの保護活動（大分県貝類談話会）
- ②ハコネシケチシダの保護活動（NPO法人初島森林植物園ネットワーク）
- ③ハッチョウトンボ、オニバス等の保護活動（大分ため池データバンク）

3 成果

- ①オナガラムシオイガイの保護を図るため、生息地の調査、増養殖実験、小学校での普及啓発授業を行った。
- ②ハコネシケチシダの保護を図るため、生育地の見回りや、鹿ネットの設置を行った。
- ③ハッチョウトンボ、オニバス等の保護を図るため、保護啓発看板の設置、ため池の生物調査や観察会の実施を行った。

4 今後の課題と取組

- (1) 当該委託事業の終了後も、当該委託団体は絶滅危惧種の保護活動を継続していく。
- (2) 平成27年度も公募を行い、絶滅危惧種の保護を十分図ることが出来る団体を選定し、委託を行う。

5 実施状況写真

①オナガラムシオイガイ



小学校での普及啓発授業



②ハコネシケチシダ



鹿ネット設置



③ハッチョウトンボ



ため池の生物調査



I-7-(1) 森と海をつなぐ環境保全推進事業 (上下流域住民等による海岸漂着流木処理活動)

【廃棄物対策課】

1 実施主体
地区自治会、NPO等の団体

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

近年、上中流域の荒廃森林などから流出した流木等が大量に海岸に集積して、下流域住民の生活、経済活動の障害となっているが、撤去のための重機作業による回収、流木の切断、処理施設への搬送等に多大な人手と経費が必要であり、下流域住民や市町村だけでの対応は困難になってきている。

(2) 目的

地区自治会、NPO等の団体がボランティア活動により海岸の漂着流木等の処理を行う場合に必要な経費の一部を補助するもの。

(3) 事業内容

団 体 名	実 施 日	場 所	参加人数	処理量
NPO法人 おおいた環境保全フォーラム	平成26年4月5日～ 平成26年4月26日	佐伯市 元猿地区 のうさかの浜	126人	約45m ³
長洲アーバンデザイン会議	平成26年4月10日～ 平成26年4月12日	宇佐市 長洲海岸	300人	約10m ³
NPO法人 水辺に遊ぶ会	平成26年6月8日～ 平成27年3月15日	中津市 大新田海岸 三百間海岸	1,424人	約110m ³
つなばんプロジェクト	平成26年5月～ 平成27年2月22日	佐伯市 西浜海岸	576人	約150m ³
クリーンアップ大分	平成26年7月6日	杵築市 奈多海岸	310人	約5m ³
地縁団体 梶ヶ浜区	平成26年7月4日～ 平成26年7月5日	杵築市 梶ヶ浜海岸	120人	約15m ³
宇佐自然と親しむ会	平成26年7月26日～ 平成26年11月30日	宇佐市 新浜海岸	89人	-
亀カメ倶楽部	平成26年8月31日～ 平成27年2月8日	別府市 関の江海岸	-	-
大分県漁業協同組合臼杵地区	平成26年7月21日	臼杵市 市内各海岸	600人	約370m ³
杵築市まちピカ運動推進委員会	平成26年10月25日	杵築市 守江港海岸	250人	約9m ³
計			3,795人	約714m ³

3 成果

平成26年度から海岸ごみの処分費を補助対象経費として新たに加えたこと、及び補助上限額を15万円から24万円に引き上げたことにより、活用団体を平成25年度の5団体から10団体に増やすことができ、参加者数も平成25年度の2,171人から3,795人に増加した。

4 今後の課題と取組

平成26年度は、年度途中で交付決定額の総額が予算額とほぼ同額になり、複数の団体からの活用要望を断ったので、予算額が増額となった今年度は活用団体のさらなる増加に向けて事業のPR等を進めていく。

5 実施状況写真

NPO法人水辺に遊ぶ会



大分県漁業協同組合臼杵地区



つなばんプロジェクト



I-7-(2) 森と海をつなぐ環境保全推進事業 (流木等被害対策緊急防除事業)

【漁業管理課】

1 実施主体

大分県漁業協同組合

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

台風、豪雨等により河川沿いの森林などから流出し、漁港や港湾内などに漂着・滞留する流木等は、漁業活動（操船、操業）の障害となることから、回収・処理作業が終了するまで、漁業者は出漁することができない。

流木等の漂着ごみの回収・処理は、施設管理者や海岸管理者が実施する責務を有するが、処理数量の把握、業者の選定などに多大な時間を要することから、迅速な対応が困難となっている。

(2) 目的

台風、豪雨等に伴い発生し、漁港や港湾内などに漂着・滞留する流木等は、漁業活動の障害となるため、漁業者自らによる迅速な回収作業を推進することで、漁業被害の防止・軽減を図る。

(3) 事業内容

大分県漁業協同組合が実施した流木等の回収経費に対し支援した。

実施箇所：1箇所 回収量：330 m³

3 成果

漁港内等の流木等を迅速に回収することで、漁船や漁具等への被害が防止・軽減されるとともに操業機会が確保できた。

4 今後の課題と取組

今後も本事業を実施することにより、漁業被害の防止・軽減に努める。

5 実施状況写真



I-8 世界農業遺産関連調査事業 (森と海のつながりの研究)

【研究普及課】

1 実施主体

大分県（京都大学へ一部委託）

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

国東半島・宇佐地域では、世界農業遺産登録を契機として、森林の有する多面的機能が見直され、森林保全に向けたさらなる取り組みが求められている。

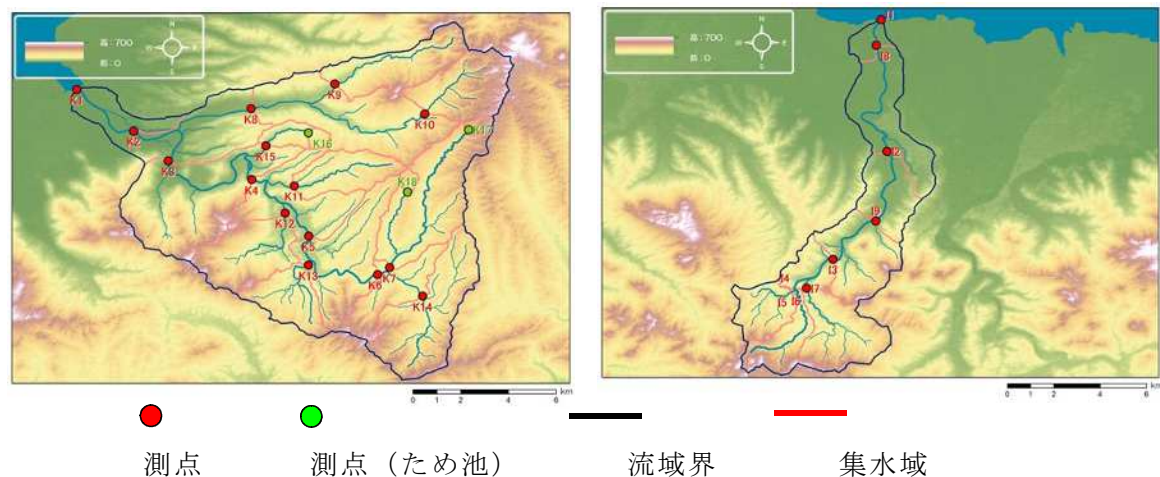
森林保全の取り組みについては、宮城県気仙沼で活動するNPO法人「森と海は恋人」が先進事例として有名であり、森と海両者のつながりを意識した取り組みが社会的にも高い関心を集めているが、認定地域においては、両者のつながりについて科学的に調査した研究事例はない。

(2) 目的

「森と海の健全なつながり」とはどういうものなのか、その構造を科学的に解明し、NPO法人「森と海は恋人」のような地域一体となった取り組みを推進する。

(3) 事業内容

国東半島・宇佐地域の特徴であるクスギ林とため池に着目し、上流域にそれらが多い河川（桂川）と少ない河川（伊呂波川）について栄養塩の状況及び河口域の生物相の調査を実施した。

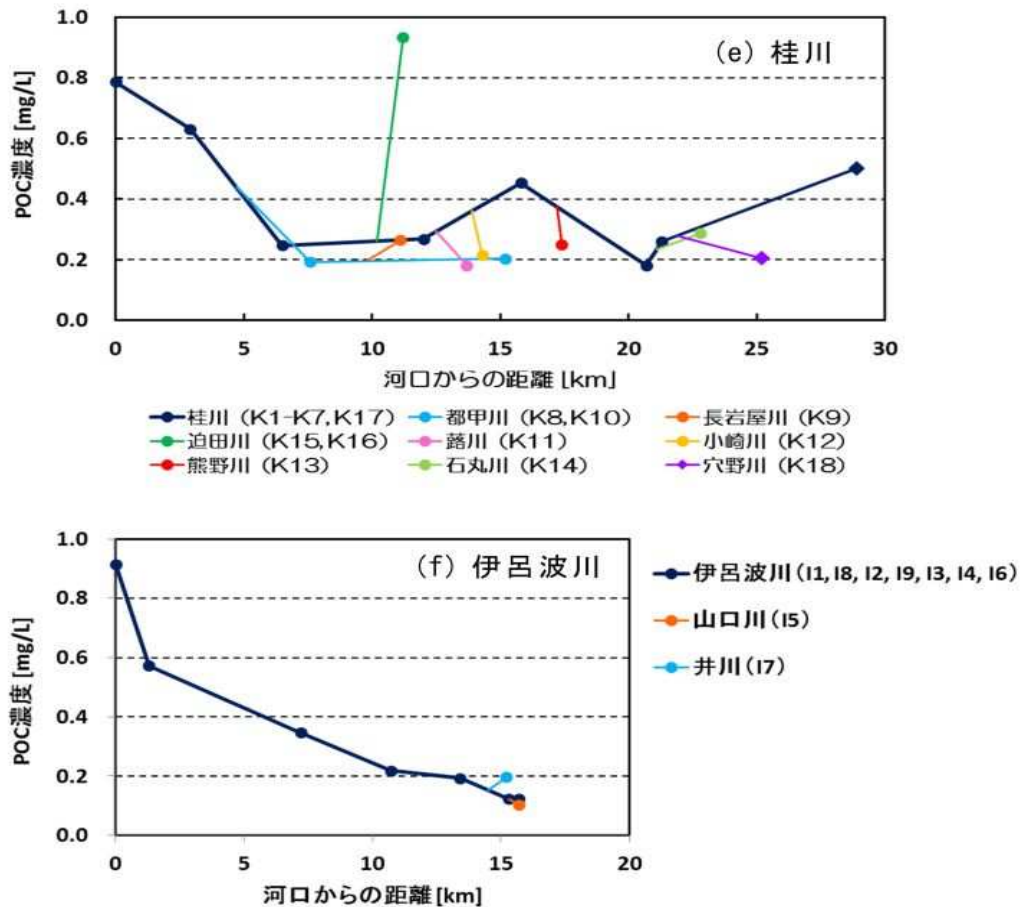


【図1】各河川の調査地点（左：桂川、右：伊呂波川）

3 成果

(1) 栄養塩(NO₃-N, POC) の状況

- ①桂川の方が相対的に高い傾向を示した（図2、POCデータ省略）。
- ②桂川では上流域から濃度高いが、伊呂波川では、上流で低く、下流で高い傾向を示した（図2、POCデータ省略）。
- ③大雨時に河川から河口域に多量に負荷されるNO₃-Nは、森林土壌由来のものが大きな部分を占めることが示唆された（データ省略）。



【図 2】 7 月における $\text{NO}_3\text{-N}$ 濃度（上：桂川水系、下、伊呂波川水系）

（2）河口域の生物相

- ①両河川で魚類の採取を行った結果、桂川河口で 12 種 259 個体、伊呂波川河口で 11 種 1,031 個体が採取された。
- ②上記データをもとに多様度指数を計算したところ、桂川 2.3、伊呂波川 1.3 となり、前者の方が多様度が大きいという結果が得られた。

4 今後の課題と取組

年次変動等さらなるデータの蓄積が必要なため、H27 年度も引き続き調査を実施する。

5 実施状況写真

採水地点



河口域での生物採取



河口域で採取された生物



Ⅱ－１ 再造林促進事業

【森林整備室】

1 実施主体

森林所有者、森林組合等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

木材価格の長期的低迷や森林所有者の高齢化等により、皆伐後の再造林が実施されない箇所が発生している。再造林が実施されないと、将来の森林資源確保と安定供給に支障をきたす。また、皆伐跡地を放置すると、災害の発生など森林の公益的機能が低下することが懸念される。

(2) 目的

林業適地における低コスト再造林を支援することにより、造林・間伐等の育林コストを縮減し、持続的な林業経営を推進する。また、早期に植栽することで、森林の公益的機能の早期回復を図る。

(3) 事業内容

伐採後の林業適地において、疎植造林(植栽本数1,000～2,000本/ha(法令による制限は遵守))を実施した事業体に対し、森林環境税を活用し、国庫補助に上乗せ助成を行う。

3 成果

事業を開始した平成22年度以降、再造林面積は増加しており、再造林放棄地が減少している。

また、平成21年度は県下全体でスギ・ヒノキの疎植造林の割合が44%であったが、平成26年度は74%まで増加し、再造林のコスト縮減が図られた。

＜再造林促進事業の計画及び実績＞

年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
計画	400 ha	400 ha	400 ha	600 ha	650 ha
実績	342 ha	301 ha	484 ha	466 ha	－ ha

4 今後の課題と取組

各市町村及び各森林組合を通じて、低コスト再造林施業の普及啓発をさらに進め、再造林放棄地の解消を図る。

5 実施状況写真



Ⅱ－２ 県産竹材利用促進事業

【工業振興課】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

本県は全国一のマダケ竹材生産地で、製竹、竹工芸、竹製品卸販売等の産業が集積しており、「別府竹細工」は経済産業省の伝統的工芸品に指定されている。

県では、竹工芸・訓練支援センターを設置し、製竹業や竹工芸の振興を図ってきたが、生活様式の変化やプラスチック代替品の台頭、安価な輸入品との競合により、竹材や竹工芸品の需要が落ち込み、竹材生産量も低下し、竹林荒廃にも繋がっている。

(2) 目的

県産竹材の新たな需要開拓に繋げるための人材育成や創業支援、竹が持つ芸術性のPRによって竹材利用を促進し、竹林の整備に繋げる。

(3) 事業内容

1) 「貸し工房」による竹材利用促進

「貸し工房」で竹材の有効活用や新たな竹製品開発を目指す入居者を対象に、荒廃竹林等の竹材を提供し、その新たな利用促進を探る。

2) 竹文化アートコンペティションの開催

竹製の大きなオブジェのデザイン画を全国公募し、実際に製作したものを芸術文化ゾーンと連携してPRすることで、建築分野における竹産業の需要拡大を目指す。

3 成果

1) 「貸し工房」による竹材利用促進

- ・入居者:3名（男性1名、女性2名）
- ・竹林実習一日時:平成26年11月11日 場所:国東市 講師:櫛上竹材 上野山貞男氏
- ・竹材活用提案－4案

2) 竹文化アートコンペティションの開催

- ・デザイン画募集－応募数:118点 来場者数:約50人

展示審査:平成26年7月25日～7月30日 場所:the bridge

- ・作品製作展示－製作展示数:3作品 来場者数:約32,250人

展示期間:平成26年11月16日～ 場所:iichiko総合文化センター

4 今後の課題と取組

竹材利用に関わる人材育成や意識啓発のほか、竹材を加工する作業場や機械がないこと、新たな竹材利用や有用性、商品開発、需要開拓が不十分という課題がある。

今後、新たな竹材利用の促進に向けて取組を継続し、竹材の有用性の理解や竹工芸等への関心を高め、竹材・竹製品の消費拡大を図るとともに、荒廃竹林の整備を促進する。

5 実施状況写真

1) 「貸し工房」による竹材利用促進



竹林実習

竹材活用提案

2) 竹文化アートコンペティションの開催



デザイン画展示審査



作品製作風景



作品展示風景



Ⅱ－３ 竹工芸品海外販路開拓事業

【商業・サービス業振興課】

１ 実施主体

- ・一般社団法人 大分県竹産業文化振興連合会
- ・アート／デザインプロジェクトアドバイザー 米山 佳子

２ 実施事業の概要

（１）現状と課題

経済産業省の伝統的工芸品に指定されている別府竹細工は、ライフスタイルの変化、安価な輸入品の流入などにより、取引額は減少し、県全体の竹産業の活力自体も失われつつある。

（２）目的

（一社）大分県竹産業文化振興連合会、米国タイモダン及びニューヨーク近代美術館等の三者が協力し、米国における販路開拓とブランディング化を進め、輸出の拡大並びに国内における大分の竹製品の需要回復を目指す。

（３）事業内容

①米国市場に適合する新製品（プロダクト品）の開発

米国民の嗜好にマッチし、中国等の安価な製品と差別化した高品質かつ多くの地元生産者が製造できる「プロダクト品」を開発する。

（委託先：アート／デザインプロジェクトアドバイザー 米山 佳子）

②米国における竹工芸品企画展の開催補助

（一社）大分県竹産業文化振興連合会が実施する、米国での竹工芸品企画展の開催を支援し、大分の竹工芸の認知度向上並びにブランディング化を図り、米国にマーケットインするとともに生産者の所得向上を図る。

３ 成果

（１）米国での取組状況について

①「スナイダーコレクション展」

（H25年11月12日～H26年9月8日、ボストン市 ボストン美術館）

②「竹工芸家講演会及び実演」

（H26年5月10日～5月11日、ボストン市 ボストン美術館）

③「Oita's Art Moment」センターピース開発・製作作品展示及びH25年度に開発した竹のジュエリーを展示、竹工芸家による講演・実演

（H26年9月20日～10月21日、ロサンゼルス市 日米文化会館）

(2) 新商品の販売実績等について

①新商品（テーブルセンターピース）開発数：14 作品

②主な販売先

国外 ・ J A C C C（日米文化会館）

・ S O F A C H I C A G O

その他 ・ カタログ、広告販売

4 今後の課題と取組

今後は、（一社）大分県竹産業文化振興連合会が単独で継続的取引を実施できる仕組み作りを研究する。

平成27年度は、テーブルセンターピースの継続開発、米国での竹工芸企画展の開催を計画している。併せて、各取引先との商談、欧米でのパブリシティについても取り組みを行うこととしている。

5 実施状況写真

①新商品開発



②展覧会



③竹工芸実演



Ⅱ－４ 竹産業振興対策事業

【林産振興室】

1 実施主体

一般社団法人 竹産業文化振興連合会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

本県は豊富な竹資源を有しているが、代替素材の開発等により竹材利用が減少している。

(2) 目的

竹材の新用途開発や消費者への普及・啓発活動を通して竹材需要の開拓を行うことにより、竹産業の振興を図る。

(3) 事業内容

大分県竹産業文化振興連合会が実施する活動費に対し補助を行う。

3 成果

①竹の新用途開発、流通対策

- ・第55回竹の大会(研修会及び市場調査)に参加し、他地域の流通や先進的取り組みを視察し、今後の新用途開発や普及啓発活動のための情報収集を行った。

②県民への情報発信、普及・啓発活動

- ・大分県農林水産祭において、竹とんぼ・竹馬教室を開催し、幅広い年齢層を対象にした普及啓発活動に取り組んだ。
- ・くらしの中の竹工芸展を開催し、若い工芸者の技術向上や伝統工芸の保持に努めるとともに、竹製品のPRを行った。

4 今後の課題と取組

現在、竹産業従事者の高齢化及び後継者不足が進んでおり、竹産業従事者の技術向上及び後継者の確保が喫緊の課題となっている。このため、竹林研修(伐竹等)を実施し、後継者確保に努める。

5 実施状況写真



H26.10 農林水産祭(竹とんぼ教室)



H27.1～2 竹工芸展

Ⅱ－５ 竹林伐採・竹材活用促進事業

【雇用・人材育成課】

1 実施主体

大分県竹工芸・訓練支援センター

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

近年の竹材の切り出し作業従事者の高齢化や竹材需要の減少による製竹業者の廃業などにより、今後、竹材の確保が困難になることが予想される。よって、自ら竹材を調達する技術を取得する。

(2) 目的

竹工芸・訓練支援センターにおいて、2年間の職業訓練を実施している竹工芸科の訓練生が、竹材調達の知識及び切出技術を習得する。

(3) 事業内容

製竹業者による指導のもと、竹林において、マダケの竹材伐採実習「鉋による切り倒し・枝打ち・サイズ分け・結束・運搬・油抜き」を行った。

3 成果

- ・伐採した竹材：約50本
- ・竹材店出荷額：25,000円相当

4 今後の課題と取組

課題：校外実習のため天候に左右されやすく、直前の日程変更が有り得るため、講師の日程及び貸切バスの調整に工夫が必要である。

取組：竹材調達技術を習得するため、今後も継続して、訓練生の竹材伐採実習を行う。

5 実施状況写真



講師による指導



切り倒し・枝打ち



運搬



サイズ分け・結束

Ⅱ－6 スギ丸太等海外輸出促進事業

【林産振興室】

1 実施主体

大分県スギ丸太等海外輸出促進協議会、瀬崎林業株式会社

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

森林資源が充実しつつある中、国内での木材需要は減少傾向にあり、今後も、日本国内の人口の増加、経済の更なる発展が望めない中では、木材需要の拡大は難しい状況にある。このため、国内需要の拡大にとどまらず、木材需要が大幅に増加している中国等の海外での需要拡大が課題となっている。

(2) 目的

県内の森林整備とスギ丸太等の価格の底上げにを目的に、海外市場において新たな木材需要の開拓と需要拡大と販路拡大を図る。

(3) 事業内容

スギ丸太等の輸出に取り組む企業に対し、丸太輸出に係る経費の一部を支援する。

3 成果

輸出数量35,329m³ （輸出先：中国34,743m³、韓国586m³）

①輸出を通じ、県内の原木市場や素材生産業者と連携が図れ、スギ低質材丸太の新たな販路開拓と需要拡大に繋がった。

②海外からの旺盛な需要に応えるため、輸出量を増加させることができた。

(輸出数量)

年 度	H24	H25	H26
実績(m ³)	7,579	17,402	35,329

4 今後の課題と取組

更なる海外販路の開拓・需要拡大を目指し、木材の大消費国である中国向けの輸出にさらに取り組む必要がある。また、昨年度より輸出を開始した中津港について、継続的な取り組みを進めていく必要がある。

5 実施状況写真



在来船への積み込み状況



在来船への積み込み状況



在来船への積み込み状況



積み込み予定のスギ原木

Ⅱ－７ 地域材活用住宅建設促進事業

【林産振興室】

1 実施主体

工務店

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

住宅の長寿命化及び人口の減少に伴い、新築住宅着工戸数はこれから減少していくと見込まれている。また、新規に住宅を建設する際には、鉄筋コンクリートや外材が4割程度使用されており、地域材の需要拡大が課題となっている。

(2) 目的

高品質スギ乾燥材の梁桁等への利用および普及宣伝活動による地域材の需要拡大。
(地域材使用住宅の高品質化および地域材利用の普及)

(3) 事業内容

地域材を多く利用している工務店が梁桁等に高品質スギ乾燥材を利用し、その普及宣伝活動に取り組む場合、材料費の一部を補助するもの。

梁桁等における高品質スギ乾燥材使用量 (m³) × 15,000円/m³
(上限：100,000円)

3 成果

今年度は工務店4店28戸に対して補助を行った(木材使用量154m³)。

昨年度に比べて実施棟数が2戸、木材使用量が13m³増加した。

これにより、工務店がより高品質なスギ乾燥材の利用することになり、地域材の需要拡大に取り組むことができた。

4 今後の課題と取組

さらなる地域材の需要拡大を図るため、対象とする住宅用部材を梁桁だけではなく、柱や土台も含めることにより、事業に参加する工務店数を増やしていく。

5 実施状況写真



高品質スギ乾燥材【梁・桁】



高品質スギ乾燥材【梁・桁】

Ⅱ－８ CLT普及支援事業

【林産振興室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

新たな建築資材であるCLTは、これまで木造化が困難であった大型建築物への使用が可能であり、今後少子高齢化等により減少が見込まれる住宅需要を補うことができる新たな木材需要として期待されている。現在、国が平成28年度中に建築基準法関連の法整備を行い、CLT工法の一般化を目指しているところである。しかし、その使用においては、設計・施工を行う建築士等の理解の促進及びCLTの生産・供給体制の整備等が課題となっている。

(2) 目的

県内の設計・建築産業及び林業・木材産業に対するCLTの普及促進

(3) 事業内容

CLTに関する有識者を招へいし、県内の設計・建築産業及び林業・木材産業の関係者に対して勉強会を開催するほか、簡易なCLT構造躯体の施工見学会を行い、県内関係者のCLTへの理解浸透を図る。

3 成果

県内外の関係者でCLTに関する研究会を立ち上げ、勉強会を開催しながら参加者を募り、設計・建設産業及び林業・木材産業の団体・企業等45社で「大分県CLT等利用促進協議会」を結成した。この協議会員に向け、大分駅近辺に長距離バス停としての用途を兼ねたCLT実証棟の施工見学会を開催した。

4 今後の課題と取組

法整備以降、県内においてCLTの需要が発生し、また対応できる環境を整備するために、協議会員をさらに募るとともに、より具体的な実物件での設計検討や、CLT生産・供給に向けた検討を進めていく。

5 実施状況写真



大分県CLT等利用促進協議会設立総会
(設立時会員：45社)



CLT実証棟施工見学会
(参加者約30社、45名)

Ⅱ－９ 障がい者福祉施設整備事業

【障害福祉課】

1 実施主体

社会福祉法人 県南福社会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

佐伯市外の児童発達支援センターに障がいのある子ども達が数多く佐伯市内から通所しており、その家族の身体的・精神的・経済的負担は大変なものがある。

(2) 目的

障がいのある子ども達とその家族の身体的・精神的・経済的負担の軽減を図るため、佐伯市内に施設を創設し、地域材を使用した「木との触れあい」が提供できる施設整備に取り組む。

(2) 事業内容

佐伯市内に「児童発達支援センターさつき園小島」を創設。施設整備に係る経費の一部を支援。また、施設整備にあたっては、地域材の利用（木造化及び内装の木質化）に取り組む。

3 成果

児童発達支援センター（定員20人）を佐伯市内に整備することにより、障がいのある子ども達とその家族の負担を軽減することができた。

また、地域材を使用したことにより、施設利用者が木を実際に見て触れることで、木の美しさを感じ、癒やしを得ることができる空間を提供できた。

（地域材使用量61㎡）

4 今後の課題と取組

施設の木造化・木質化の推進を図りながら、県内の児童発達支援センター等の充実に取り組む。

5 実施状況写真



【躯体全体】



【内部：腰壁・造作材（杉材）】

Ⅲ－１ 森林づくりボランティア活動促進事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県、市町村、森林ボランティア団体等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県では平成14年に設置した「大分県森林づくりボランティア支援センター」を中心に、森林ボランティア活動を推進しており、森林ボランティア参加者数は年々増加している。

また、県下各地に森林ボランティア団体が発足し、荒れた竹林や里山林の整備や森林環境教育を実施しているが、メンバーの高齢化や資金不足で活動の継続が困難な団体が多いのが現状である。

(2) 目的

県民一人ひとりが身近な森林づくりに参加し、県民みんなで森林を守る意識を醸成するために、県民が自ら取り組む森林づくり活動を支援し、森林ボランティア活動の活性化を図る。

(3) 事業内容

①森林づくりボランティア支援センター事業

(ア) 大分県森林づくりボランティア支援センター(大分市高尾山自然公園内)を設置し、森林ボランティア情報の収集・発信等を行い、森林ボランティア活動を支援した。

委託先：NPO法人グリーンインストラクターおおいた	
事業 内 容	1) ボランティア情報の収集・発信 ・HPによる森林ボランティア情報発信 ・「森林づくりボランティア通信」の発行（毎月1,000部発行）
	2) 森林ボランティア団体（新規1団体）、個人（新規115名）の登録
	3) ボランティア通い帳の発行（115冊）
	4) 森林ボランティア指導者のための安全講習会の開催（18名参加）
	5) 森林づくりに関する相談、情報提供
	6) 森林ボランティア団体協議会の活動支援（情報交換会、学習会開催）
	7) センター施設を活用した森林ボランティア活動、森林環境教育の支援 ・利用団体：12団体 ・利用者数：744人

ホームページの開設



「森林ボランティア通信」



「ボランティア通い帳」



「安全講習会」



センター施設を活用したボランティア活動、講演会など



(イ) 緑と森の総合実践講座（新規講座）

森林ボランティア団体の知識や技術の向上を図るため、森林ボランティア団体等を対象とした研修会を開催した。

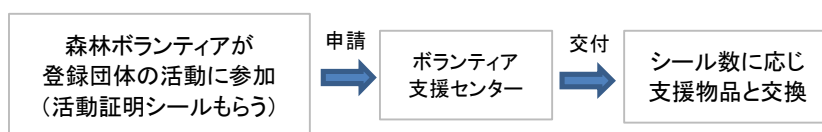
講座テーマ：「身近な樹木のメンテナンス」

	参加者数	内 容
第1回	11名	樹木の基礎知識 身近な樹木の剪定 剪定実習
第2回	20名	病害虫の防除、施肥 サクラの年間管理 サクラの管理（施肥・剪定）実習



②森林づくりボランティア活動支援事業

森林ボランティア活動を支援するため、森林ボランティア登録者に対し、森林づくり活動実績に応じてタオル・鎌・鋸などの支援物品54件を交付した。



③森林づくりボランティア技術向上事業

森林ボランティアの知識や技術の向上ため、各種研修会を開催し、森林ボランティアの養成を行った。

	開催回数	参加者数	内 容
初級講座	2日×2回	18人	森林・林業の基礎知識 危険な野生生物 応急手当、自然観察 植樹実習 など
中級講座	2日×2回	17人	森林づくりの方法 多様な森の観察 森林の手入れ 道具の使い方 など
上級講座	刈払機 1日×1回	30人	刈払機の基礎知識 実習
	チェーンソー 2日×1回	28人	チェーンソーの基礎知識 実習

<初級講座>



<上級講座>



刈払機研修

<中級講座>



チェーンソー研修

④企業参画の森林づくり推進事業

企業が森林所有者、森林組合等と協定を結び実施する企業の森林づくりを支援した。26年度は、1社が再協定を行った。

＜平成26年度 再協定＞

再協定：1社 ・TOSテレビ大分

⑤森林づくり提案事業

県民からの提案のあった事業を審査し、採択した事業に対し補助を行った。

実施団体：50団体

※詳細は次頁「事業一覧表」を参照

参加者：10,542人

植樹活動（日田市中津江村）



丸太切り体験（杵築市太田小学校）



3 成果

- ・森林ボランティア団体等を対象とした新規講座等を開催し、森林づくりの知識や技術の向上を図った。また、県民から提案のあった森林づくり提案事業では50団体を対象に支援を行った。
- ・森林ボランティア登録団体、登録者数ともに増加し、延べ12,902人が森林ボランティア活動に参加した。

＜森林ボランティア団体数、参加者数の推移＞

年度	登録団体	登録個人(人)	参加者数(人)	目標参加者数(人)	達成率(%)
H18	31	583	9,361	8,500	110%
H19	34	1,000	9,511	8,700	109%
H20	41	1,233	9,734	8,900	109%
H21	46	1,318	12,567	9,200	137%
H22	51	1,912	12,608	9,500	133%
H23	53	2,056	12,497	10,200	123%
H24	60	2,213	12,612	10,900	116%
H25	62	2,329	12,832	11,600	111%
H26	63	2,444	12,902	12,300	105%
H27	—	—	—	13,000	—

4 今後の課題と取組

森林ボランティア参加者数については、目標は達成しているものの、近年高止まり傾向にあるため、大学生など若い世代の森林ボランティアの育成の推進する。また、森林ボランティア団体協議会と連携し、各種研修会を開催する等、森林ボランティア団体への活動支援を行う。

平成26年度 森林づくり提案事業一覧表

(単位:千円、人)

NO	流域名	事業の名称	事業主体	活動場所	事業内容	交付額	参加者数
1	大分北部	小城観音を守る森林づくり事業	東国東郡森林組合	国東市	植樹祭を開催し、地区住民と小城観音を守る会を中心に、桜を植樹し、里山再生と森林保全に対する意識の醸成を図る	500	100
2		自然林再生活動	両子の森プロジェクト	国東市	ボランティアを募り、3年前の植樹地(常緑樹、落葉広葉樹)で下刈やシカネット調整、自然学習会等を実施し、森について学びながら、地域活性を図る	168	72
3		杵築市大田地区の森林環境教育活動	有限会社 福田林業	杵築市	森林環境教育活動(ネイチャーゲーム、丸太切り・植樹体験等)を通じて、地域住民や地元小学生・幼稚園児等に、山林の役割について理解を深めて関心を持ってもらう	393	168
4		森林ふれあい体験学習と干潟体験学習	三郷小学校みどりの少年団	中津市	森林体験学習等を通じて、子供達に山・川・海のつながりと、森林の働きの重要性を理解させ、緑を愛する心を育成する	161	94
5		森のめぐみの創設と河川愛護促進事業	宇佐市の森と海の共生を推進する会	宇佐市	子供達を対象に、植樹・椎茸駒打ち体験等を行い、森林の効用や河川や河川の役割等についての講習会、森・川・海の恵みの試食会等を実施する	335	66
6		中津・桜ともみじの里づくり事業	中津・桜ともみじの会実行委員会	中津市	中津市を日本有数の桜ともみじの名所として創造するため、山国川流域に落葉広葉樹を植栽する	500	40
7		第17回「耶馬の森林」植樹の集い	「耶馬の森林」育成協議会	中津市	「耶馬の森林」植樹の集いを開催し、水を育む森林を守る大切さについて、耶馬溪ダム上下流域住民の相互理解と連携を深めるとともに、運命共同体意識を高める	500	585
8		宇佐市みなと祭りものづくり教室 ほか	大分の木育を考える会	宇佐市 豊後高田市	子供達に森林の働きの重要性を理解させ、ものづくりをすることで木材を大切にすることを育成する	500	400
9	大分中部	青江ダム森林公園づくり事業	青江ダム森林公園づくり実行委員会	津久見市	青江ダム周辺の森林整備(つる切り、雑木伐採、植樹)と小学生対象の自然体験学習を実施する	384	184
10		うーた新3ヵ年プロジェクト	うーたの会	大分市	都市の中に位置する里山林の整備を継続して実施。また、子供自然体験活動の拡充を図るため、森林・自然観察、体験、自然素材を使用したものづくり等の豊富なメニューを実施する	288	625
11		かくれた山里の景観保全と名木の山里づくり7	河原内つじ会	大分市	学校や保育所と連携し子供達に豊かな森林体験が実施できるよう森林づくり・環境教室を実施する	222	140
12		森で遊び、森で学ぶ森での特別事業	つくみ環境美化グループ	津久見市	津久見市中心部の宮山公園で広葉樹植栽を行い、森林公園として整備する。また、伐採した竹材の利活用について大分大学と協働で竹燃料電池や固形燃料化についての有効性を検討する	244	550
13		本宮山周辺の里山・森林保全	本宮山を守る会	大分市	地域内外の人を呼び込み、協働で森林愛護教育・植林等を行い、地域の里山保全と環境整備を行う	360	540
14		保戸島地区の遠見山森林保全事業	遠見山を蘇らせる会	津久見市	昨年度整備した広場を中心に広葉樹を植栽し島住民、観光客の憩える森林として整備する。地域住民自ら作業に従事することにより森林の大切さについての理解を深めることができる	141	100
15		由布市鬼瀬地区の竹林保全事業	NPO法人 いきいき安心おおい	由布市	NPOと地域が協力して森林・竹林を整備を実施し森林整備の意識の醸成を図る。また、伐採した竹材の利活用について大分大学と協働で竹燃料電池や固形燃料化についての有効性を検討する	500	171
16		津久見市の春は四浦半島から	四浦を考える会	津久見市	河津桜・クヌギの植栽や下刈を実施し、豊かな海を再生する。開花時期が早く、開花期間が長い河津桜の植栽により、“津久見市の春は四浦半島から”と言われるよう取り組む	500	210
17		大分市河原内の美しい森づくり	NPO法人 碧い海の会	大分市	河原内地区で美しい森づくり活動に取り組む。活動に必要な作業道や植林地整備を行う。親子で植林を行い、樹木や森への愛着を深める	389	1,000
18		竹中地区の里山保全事業	豊後ふるさと再生塾 「昭和の里“かぐや姫”」	大分市	荒廃竹林・雑木林の整備、未利用資源の有効活用(炭化)を通じ、ふるさとの景観を「昭和初期の姿に」復元させ、自然体験できる交流の場として整備する	449	152
19		荒廃した里山林整備事業	平石コミュニティ事業部会	由布市	地域住民・大学生ボランティア等と協働で森林整備し、憩いの森林をつくるほか、都市部の子供や家族を対象に自然観察会、炭焼体験等を実施し、里山資源の活用を図る	218	100
20		山桜日本一の里山づくり	永慶寺山登83戸組合	由布市	H24年度に地元小学生・APU学生と共に桜の植栽を実施。ボランティアを募って保育を実施し、森林づくりの必要性等を学ぶ機会を提供する	93	30
21		循環型エネルギー推進による里山再生事業	大分エコクラブ	由布市	チェーンソー、刈り払い機の講習会、子供を対象とした椎茸駒打ち体験を実施する	236	200
22		大分市大字本神崎河内地区の里山保全事業	NPO法人 さがのせき・彩彩カフェ	大分市	湊川上流域の里山保全(竹林伐採、クヌギの植林)、森林環境教育活動を実施する	328	35
23		小学生のための木育・ものづくり教室	いきいきものづくり教室	大分市	県産木材を利用したもののづくりを子供達に体験させ、木の良さを感じとってもらうとともに、ものづくりに対する興味・関心を引き出す	430	730
24		里、屋山地区の里山保全事業	一般社団法人 大分県造園建設業協会	大分市	竹林再生事業跡地で地元住民・日本文理大学生ボランティアと協働し里山保全の取組を実施する。また、整備したフィールドを活用し森林の機能等を学ぶ学習会を開催する	486	183
25		白馬溪景観再生事業	臼杵市馬代区長会	臼杵市	降雪による倒木の処理及びモミジの新植を行い、モミジの名所である白馬溪の景観を再生する	322	50
26		妊婦と配偶者を対象とした木工体験	おもちゃの広場おおい	大分市	ファーストスプーン、竹・木製おもちゃづくり体験により、育児に木製品を取り入れるきっかけをつくるほか、木のおもちゃや環境絵本等を紹介し、若い世代へ森林意識の醸成を図る	237	118
27		里山保全親子森林教室	NPO法人 里山保全竹活用百人会	竹田市	森林体験教室(竹箸づくり、自然観察、花炭づくり等)を通じて、子ども達に、森林の重要性を認識してもらう	137	84
28		森と水、林産物との関わり	NPO法人 大野町森林くらぶ	豊後大野市	広葉樹林の下草刈りやわさび植栽等を通じて、環境の大切さについて学ぶ	263	85
29		森林環境教育活動	南小学校跡地利用推進協議会	豊後大野市	小学生を対象に椎茸栽培や駒打ち体験、炭焼き体験等を行い、地域住民と美しい里山づくりを進め、一般社会に対してその気運を高める活動を行う	485	196

NO	流域名	事業の名称	事業主体	活動場所	事業内容	交付額	参加者数
30	大分西部	200海里の森づくり	一般財団法人 中津江村地球財団	日田市	筑後川上流の森づくりを下流域住民と共に行い、水源地域の森林の大切さを周知し、森林整備に対する意識の高揚を図る	500	380
31		市民参加の森づくり	日田市	日田市	森づくりをとおして森林の有する公益的機能を守り育てる気運を高めるとともに、上下流域住民の交流・親睦を深める	137	289
32		千年の森林づくり	ふるさとキャラバン隊	玖珠町	H3年台風19号被害を機に、森林の重要性について都市部や筑後川下流域関係者に理解を求め、下刈作業など復興の協力をお願いすると共に都市農山村の交流を図る	282	83
33		荒廃竹林の整備及び竹の有効利用	千年あかり実行委員会	日田市	管理不足の竹林の伐採・片付けを支援し健全な里山を保全する。また、伐採した竹で灯籠を製作し、日田市千年あかりで有効利用する	500	150
34		森を知ろう、体験しよう、森を作ろう	NPO法人 生活環境テラス	日田市	子供達を対象とした森林環境学習や森林体験(魔法の杖作り)、大人を対象とした森林体験(植樹と山歩き)を実施する	344	35
35		ひと山まるごとガーデニング	ラブ・グリーン大山ボランティア 実行委員会	日田市	下流域の住民ボランティアによる育林活動を行い水源の涵養に努める	115	140
36		子どもの森林体験学習活動	豊後自然塾	日田市	自然体験の少ない子供達を対象に、森林体験活動や森林環境保全学習を実施する	500	289
37		子供の炭焼き等森林体験活動	九重宝夢工房	九重町	地域の子供達に炭焼きや椎茸駒打ち体験を通じて、里山の大切さを知ってもらうとともに、荒廃する里山の整備につなげる	109	70
38		日田木青会の森林授業・木工体験	日田木材協同組合青壮年会	日田市	子供や保護者を対象に、木育授業及び木工体験を行い、森林・林業に対する意識の向上を図る	250	199
39		ヤブトラ物語	奥江の森を元気にする会 森林部会	由布市	由布市湯布院の奥江地区において、除伐・植樹・森林教室等の活動を行い、自然と人間が共生し豊かになっていく方法を模索する	500	75
40		ひかりと風の森水源地森林体感交流	柿ノ谷森林づくり実行委員会	日田市	筑後川中津江村最上流水源涵養林を環境学習の場として開放し、下流域までの多くの小学生に水を守ることは森を守ることだと体感を通して認識してもらう	500	126
41		大山ダムの森(大山ダム子供の森)整備事業	NPO法人 初島森林植物園ネットワーク	日田市	ダムサイトに、モデル的な水源林・景観林を造成する。生物多様性の高い森づくりを行う。子供の森林教育・自然教育の場として整備する。下流域と交流しながら協働の森づくりを続ける	500	70
42		木育活動	日田木人クラブ	日田市 大分市	子どもたちに直接木と触れ合ってもらうことで、家庭生活においても木に関心を持ってもらう	500	650
43	大分南部	ボランティアによる森林づくり事業	佐伯広域森林組合	佐伯市	公募や自主参加による森林ボランティア活動(枝打ち、コンテナ苗植栽)を実施する	451	200
44		横川地区の里山保全事業	観感の里森の会	佐伯市	荒廃した伐採跡地を活用して、広葉樹の森を造成し、河川を含めた自然環境整備により自然体験学習を行うフィールドを創る	420	30
45		森のチカラ保全事業	NPO法人 未来塾	佐伯市	針葉樹伐採後に放置された土地において、ヤマザクラの植栽・シカ防護柵の設置を行い、里山保全を図る	252	30
46		秋葉山森林整備事業	秋葉山さくらの会	佐伯市	高速道工事に伴う伐採跡地で、地域住民が協力して河津桜の植栽、下刈、除伐等を行い、環境保全を図る	444	150
47		森林づくり伐竹活動	バンブープロジェクト実行委員会	佐伯市	市民ボランティアを募り、伐竹作業を行い、森林環境の改善を図る	500	200
48		大越地区里山保全事業	大越地区棚田を守る協議会	佐伯市	植栽、作業路開設、炭窯整備等により、森林環境教育の場を整備し、都市住民との交流を図る	500	90
49		馬鎮の森保全事業	馬鎮の森を守る会	佐伯市	馬鎮神社周辺の森林を地域住民の憩いの場及び森林づくりボランティア活動の拠点とし、地区住民の森林環境に対する意識の向上を図る	291	32
50		循環する「佐伯の森林」づくり推進事業	NPO法人 やまのりの会	佐伯市	地区住民や子供達を対象に森林環境学習、森林体験(伐竹、下刈、椎茸駒打ち)等を実施する	409	246
合計						17,773	10,542

森林づくり提案事業 実施例

＜東国東郡森林組合＞



武蔵町小城地区で植樹祭を実施

＜三郷小みどりの少年団＞



山国町天の岩戸で森林体験学習を実施

＜NPO法人いきいき安心おいた＞



由布市挾間町鬼瀬地区で竹林整備を実施

＜南小学校跡地利用推進協議会＞



あかい屋根の郷でしいたけ駒打ち体験を実施

＜柿ノ谷森林づくり実行委員会＞



中津江村柿ノ谷国有林で森林ウォーキング

＜NPO法人やまもりの会＞



佐伯市長良地区で木工教室を実施

Ⅲ－２－(１) 森林環境教育推進事業 (森の先生派遣事業)

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県

「N P O 法人グリーンインストラクターおおいた」に委託

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

子どもたちが身近に森林や自然に触れる機会が減少している。

(2) 目的

次世代を担う子どもたちに森林や自然に対する理解を深めてもらうため、森林体験活動等を実施する。

(3) 事業内容

保育所や幼稚園、小・中・高校、放課後児童クラブ等で開催される行事等に県が認定する「森の先生」を講師として派遣し、森林体験活動等を実施する。

3 成果

森林体験活動等を通じ、子どもたちの森林環境に対する理解と関心が高まった。

＜平成26年度実績＞

(派遣回数) 96回

(派遣人数) 380人

(体験人数) 子ども 3,784人、大人 594人

＜実績の推移＞

	H 2 4	H 2 5	H 2 6
派遣回数	51回	64回	96回
派遣人数	210人	350人	380人
体験児童数	2,750人	3,734人	3,784人

4 今後の課題と取組

森林環境教育や自然体験に対する関心が高まり、学校等からの申込みが年々増えているため、派遣回数を増やし、森林体験活動の機会の増加を目指す。

5 実施状況写真



自然観察会



しいたけほだ木の観察

Ⅲ－２－（２） 森林環境教育推進事業 （名樹とのふれあい事業）

【森との共生推進室】

1 実施主体

市町村

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

県指定の特別保護樹木 64 本のうち、経年変化や気象害等により、樹勢の悪化や倒伏の恐れが生じている個体がある。

（２）目的

県指定の特別保護樹木のうち、不健全樹木を保育、保全し健全な状態に誘導する。

（３）事業内容

- ・不健全な樹木の保全・・・整枝、剪定、古枝除去など
- ・踏圧等による被害予防・・・進入防止柵設置など

3 成果

4 本の特別保護樹木（中津市シダレザクラ、日田市イチョウ及びムクノキ、佐伯市ビャクシン）の治療を実施した。剪定、生育環境を改善する等の治療ができたため、今後樹勢の回復が期待できる。

4 今後の課題と取組

特別保護樹木は樹齢が 100 年以上と古木が多いため、引き続き事業を実施し、樹木の健全化を図りたい。

また、古くから地域に愛されてきたシンボリックな存在であるため、県民が巨樹古木と文化の関わりを学ぶ場としても活用していきたい。

5 実施状況写真

シダレザクラ（中津市）



作業前



作業後（剪定・除伐・土壌改良）

Ⅲ－２－（３） 森林環境教育推進事業 （次代の森林づくり活動リーダー育成研修支援事業）

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県みどりの少年団育成連絡協議会

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

大分の豊かな森林を次世代に引き継ぐためには、次世代の森づくりを担う人材の確保・育成が課題となっている。

（２）目的

日頃から地域において森づくり活動や森林環境教育等を実践している子どもたちの中から「次代の森林づくり活動リーダー候補者」を選抜し、将来のリーダーとしての資質向上を図るための研修会を実施する。

（３）事業内容

世界自然遺産のひとつである屋久島で、森林環境に関する研修を実施する。

（参加者） みどりの少年団 28 名、ボーイスカウト 4 名、ガールスカウト 3 名
（計 35 名）

（行程等） 平成 26 年 8 月 20 日～22 日（2 泊 3 日）

1 日目：屋久島環境文化村センター、志戸子ガジュマル園、学習会

2 日目：ヤクスギランド、安房川でカヌー体験、感想文書き

3 日目：うみがめ館、宮之浦散策

3 成果

- ・世界的、国内的に有数の森林環境保全地域を体験することにより、広い視点で森林環境に関する理解や知識が深まったほか、郷土のみどりを守る意識が高まった。
- ・研修会、発表会、報告会等を通じ、より一層「次代の森林づくり活動リーダー」としての資質向上が図られ、今後の活躍が期待できる。

4 今後の課題と取組

意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、研修内容をさらに拡充させ、屋久島での研修会を実施していきたい。

5 実施状況写真



屋久島環境文化村センター



ヤクスギランド

Ⅲ－２－（４）、（５） 森林環境教育推進事業 （おおいた木のおもちゃ展推進事業、木材産業普及啓発事業）

【林産振興室】

1 実施主体

- ①木のおもちゃ展：NPO法人アシスト・パル・オオイタ
- ②木材産業普及啓発：大分県

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

生活様式の変化に伴い、日常生活の中で木に触れることが少なくなり、五感を通じ木の良さを感じ、木の文化への理解を深める機会が減少している。また、豊かな森林(地域)資源を活用した「ものづくり」や「地域づくり」が進んでいない。

（２）目的

子どもの頃から木に親しみ・使っていくことを通じて、人と木や森との関わりを主体的に考えることができる豊かな心を育む「木育」活動の実施及び、豊かな森林(地域)資源を活用した「ものづくり」や「地域づくり」の現場に触れることを通じて、木の良さや文化への理解を深める。

（３）事業内容

①木のおもちゃ展

「おおいた木育フェスタ」をiichiko総合文化センターにて４日間開催した。地下１階県民ギャラリーにおいては、県内の木工作家が参加した「木のおもちゃ点&木工体験ワークショップ」を、エントランス等では「県産材の積み木で遊ぼうコーナー」を開催した。

②木材産業普及啓発

大分大学の学生を対象に原木市場、製品市場、木工施設の現場を見学するバスツアーを開催した。

3 成果

①木のおもちゃ展

作家や木育インストラクターの指導によるワークショップの開催や県産スギ材で作った積木の遊び場設置を行い、子どもたちが木に直接ふれあう機会を設けることができた。

②木材産業普及啓発

バスツアーで原木・製品市場から木工施設までを見学することにより、森林の働きや木の文化について普及を図ることができた。

4 今後の課題と取組

今後は、幼稚園等に県産材を使った木育教材を導入する経費の補助や木育イベントでの木育講座の開催など更なる「木育」の推進に取り組む。

5 実施状況写真



県産材のおもちゃで遊ぶ子どもたち



積み木で遊ぶ子どもたち



木工体験をする子どもたち



原木市場を見学する大学生

Ⅲ－３ 子育て自然体験促進事業

【こども子育て支援課】

１ 実施主体

大分県

２ 実施事業の概要

（１）現状と課題

少子化、核家族化、都市化の進行等により、親世代も自然に親しむ経験のない人が増えており、子どもが自然の中で様々な体験をする機会が減少している。

また、野外活動には、準備や知識が必要であるため、保育所等子育て支援施設や母親だけで取り組むには安全面等において課題がある。

（２）目的

子どもの基礎となる感性を育むために重要な幼少期からの自然体験について、野外活動や自然体験の専門的知識を持つ「森の先生」等を活用し、子育て支援施設において、職員や親子を対象とした自然体験の行事等を取り入れることにより、家庭や地域における子どもの自然体験の機会を増やし、もって子どもの心身の健やかな成長を図る。

（３）事業内容

自然ふれあい体験学習会として公園、森林等における自然ふれあい体験行事を行う。

（講師）森の先生、（活動場所）開催施設内、近隣の公園、森林等

（活動時間）概ね２時間程度

３ 成果

子育て支援施設において、自然体験の行事が取り入れられ、子どもの自然体験機会の拡充が図られた。

- ・ １７施設、参加者１，２４４人（子ども５５５人、保護者・施設職員６８９人）

４ 今後の課題と取組

子育て支援施設に対する一定の周知が図られたことから、今後は「森の先生派遣事業」を活用した行事開催とする。

５ 実施状況写真



Ⅲ－４ タデ原湿原木道整備事業

【景観・まちづくり室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

登山道に設置されている木道において、整備から相当年数が経過し、施設の老朽化が進んでいることから、転倒や転落など登山者に危険を及ぼす恐れがある。

(2) 目的

劣化した木道を改修し、登山者等が安全で安心して施設を利用できる環境を整える。

(3) 事業内容

阿蘇くじゅう国立公園内のタデ原湿原にあるの木道を全面的に架け替え、一部急勾配となる箇所や屈曲部においては滑り止めや手すりを設置した。

3 成果

老朽化した施設の改修を行うことで、登山者の安全性を確保するとともに、利用環境の改善が図られた。

(木道改修) 98m

4 今後の課題と取組

登山道の安全性や利便性を向上させるため、施設を保全するとともに、腐食や劣化の状況に応じて補強や改修等を適宜行う。

5 実施状況写真

木道改修



Ⅲ－５ 森林環境学習促進事業

【社会教育課】

1 実施主体

大分県立社会教育総合センター 香々地青少年の家・九重青少年の家

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

環境学習（自然体験や生活体験）は子どもたちの規範意識や人間関係能力の育成に大きな影響があると考えられており、環境学習などの豊富な体験をとおして、子どもたちに興味関心を抱かせたり、内面の道徳性を育成することなどが強く求められている。

(2) 目的

森林環境学習指導者を活用して、学習機会の提供や指導者を派遣することにより、自然体験活動・宿泊体験活動の促進を図る。

(3) 事業内容

- ①「ここのえエコレンジャーキッズ」（年3回、2泊3日1回、1泊2日2回実施）
- ②「森林（もり）の環境学習サポート隊」の派遣
- ③「森林環境学習スキルアップセミナー」の実施
- ④「森林環境学習指導者」活用調査研究

3 成果

森林環境学習指導者は意欲的に研修に取り組み、「ここのえエコレンジャーキッズ」においてプログラム作成から実際の指導まで行う等、実践力も向上させてきている。各事業の参加者も、下は園児から上は成人（保護者）まで、幅広く環境学習を体験し、リピーターも数多く見られたことから、子どもや保護者にも環境学習の重要性を体感してもらうことができた。

4 今後の課題と取組

幼児期からの自然体験活動・環境学習の重要性が唱えられていることを受け、毎月1回「ここのえ緑の子ども園」等を開催し、低年齢からの環境学習機会の拡充に取り組むとともに、森林環境学習指導者のスキルアップ及び活用の充実を図る必要がある。

5 実施状況写真



かまくら作り（平成27年2月7日）
「第3回ここのえエコレンジャーキッズ」



小枝を使って昆虫作り（平成27年2月3日）
「森林（もり）の環境学習サポート隊」

Ⅲ－６ ごみゼロ探検団推進事業

【地球環境対策課】

1 実施主体

ごみゼロおおいた推進隊、NPO法人、ボランティア活動など社会貢献活動を行う法人格を持たない非営利団体等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

地球温暖化問題をはじめ、様々な環境課題の解決のためには、子どもの頃からの特に実体験を伴う環境学習が重要である。しかし、学校現場においては、一部に環境教育に取り組む学校もあるが、教科では無い、時間や予算が無いといった理由により、年間を通じた計画的なものが十分には実施されていない。他方、青少年団体等で環境教育に取り組む団体もあるが、単発的なものが多く、体系的な活動を実施したくても資金面で困難な団体も多い。

(2) 目的

大分の恵み豊かな自然環境守り、将来に継承するため県民総参加で実施しているごみゼロおおいた作戦の取組を次世代に引き継ぐため、県内の子どもたちが環境問題への関心を深め、解決に向けて自ら考え行動する力を育む。

(3) 事業内容

県内の子どもたちに対する自然体験活動など実体験を伴う年間を通じた環境学習を行う団体に対して支援を行う。

3 成果

- ・採択団体 11団体
- ・受講者数 延べ725人
- ・受講者の声 「きれいな水を守り続けるには、川の上流に住むわたしたちが、ごみや油などのきたないものを捨てないようにしたい」等

4 今後の課題と取組

環境教育を県全域に広げるためには、多種多様な団体が環境教育を実施することが必要であるが、事業に応募したいが、環境教育のノウハウが無いといった団体が存在するため、平成27年度においては、希望する団体には県環境教育アドバイザーの助言を受けることができることとし、事業への応募団体の多様化を図る。

5 実施状況写真



つな★ばんプロジェクト（佐伯市）
「アユのちょんがけ体験」



吉野校区児童育成クラブ（大分市）
「清掃工場の見学」

Ⅲ－７ 豊かな水環境創出事業

【環境保全課】

1 実施主体

4つのモデル河川で水環境保全活動を行うNPO、自治会等
(※モデル河川：筑後川、大分川、大野川、犬丸川)

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

近年、河川の水環境基準達成率は概ね横ばいで推移しているが、一部の河川では、「汚れている」等の声があり、現状の水質データと県民の意識に乖離がある。また、豊かな水を育む森林の保全活動や河川の美化・清掃活動等の水環境保全活動は特定の住民や地域に限定され、広がりが不十分である。

(2) 目的

モデル河川で流域住民が主体となる流域会議を設立し、流域住民が取組事項等を定め、各流域で水環境保全活動を展開し、豊かな水環境の創出を目指す。

(3) 事業内容

モデル河川で流域住民が行う源流域での植樹等の水環境保全活動や水循環について学ぶ研修会の支援・協働により、生活排水対策の普及・啓発等を実施した。

3 成果

- ・モデル河川で流域住民主導の流域会議が設立された。
- ・モデル河川で県が支援・協働した流域住民の水環境保全活動は27回。
(うち植林、森林環境教育研修等：5回)
- ・合併処理浄化槽転換への上乗せ補助制度が2市2町でスタートした。

4 今後の課題と取組

- ・各モデル河川で取組内容が異なるため、実態に応じ柔軟な支援を図り、多様な主体へ水環境保全活動を拡充・展開していくことが必要である。
- ・流域住民に森林の持つ多面的機能の重要性を認識してもらい、上流～下流まで流域全体に活動を拡げていく必要がある。

5 実施状況写真



大野川源流域の植樹活動



外来藻（オオカナダモ）の撤去活動

Ⅲ－８ 観光行政事務指導費

【観光・地域振興課】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

大分県の製材品出荷量は463千m³と全国5位の規模を誇っているが、県内及び首都圏において大分県産材の認知度は進んでいない状況にある。

一方、観光に目を向けると、平成26年度より「おんせん県おおいた」のキャッチフレーズを用い、首都圏等で大分の魅力を積極的にPRしている。また、平成27年春の県立美術館のオープンに加えて、夏にはJRのキャンペーンが開催され、県内外から多くの観光客が訪れることが予想されている。これらのイベントや施設を活用し、効果的に大分県産材のPRを行い、更なる県産材の認知度向上に努める必要がある。

(2) 目的

大分県立美術館や県外の方が多く集まる場所において、大分県産材を活用したツールを用い、森林資源豊かな大分県と県産材の良さをPRした。

(3) 事業内容

大分県産材を見て、触れて、木の良さを体感できるPRツールの作成

①風呂桶 180個

②木育ツール 1式（県産材を活用した木のオブジェ、積木等）

3 成果

- ・多くの人が集まる場所で効果的に大分県産材のPRができ、県産材の認知度向上に繋がった。
- ・実際に県産材に触れることで、その良さを体験してもらうことができた。

4 今後の課題と取組

おんせん県おおいたのPRイベントや、美術館において、風呂桶、木育ツールを活用し、更なる県産材のPRに取り組む。

5 実施状況写真



大分県東京事務所でのPR



大分県立美術館に設置したオブジェ



フェリー乗り場でのPR



大分県立美術館に設置した積木

Ⅲ－９ みんなで支える森林づくり推進事業

【森との共生推進室】

１ 実施主体

大分県

２ 実施事業の概要

（１）現状と課題

森林環境税は「県民の理解と協力の下に、森林環境を保全し、森林を全ての県民で守り育てる意識を醸成する」ことを理念としているが、森林環境税の認知度はまだ低く、税の理念や使途が県民に浸透しているとはいえない状況である。

（２）目的

森林環境税導入の理念を広く県民に浸透させるため、森林づくり活動への県民の参加を促し、県民総参加の森林づくりを推進する。

また、森林環境税の適正な運営を行うため、県民の代表からなる外部委員による森林環境税活用事業の審議・検証を行い、効果的な税の活用を図る。

（３）事業内容

①第１４回豊かな国の森づくり大会の開催

県民総参加の森林づくりを推進するために、豊かな国の森づくり大会を開催した。

開催日時：１１月１５日（土） １０：３０～１４：３０

開催場所：香々地青少年の家（豊後高田市香々地）

大会テーマ：「世界農業遺産 次代に引き継ぐ 森づくり」

主催等：大分県、豊後高田市、(公財)森林ネットおおいた

大会規模：参加者数５００人（みどりの少年団、大学生、森林ボランティアほか）

森林づくり活動：クヌギ林整備 ０．４９ha（クヌギ植栽６５０本、萌芽整理５５株）

自然観察林整備 ０．５８ha（除伐、つる切り等）

木育教室（参加者約１００名）

世界農業遺産PR大使任命式



クヌギの植栽



自然観察林の整備



木育教室



②新たな森林づくり推進体制整備事業

・「森林づくり委員会」の開催

森林環境税を活用した事業の適正な運営のため、森林づくり委員会を開催した。

回数	開催日	協議事項
第1回	6月12日	・25年度森林環境税事業の実績 ・新たな育林技術等研究開発事業審査
第2回	10月17日	・27年度森林環境税新規事業の審議 ・新たな育林技術等研究開発事業審査
第3回	12月12日	・第3期森林環境税について ・地域材利用の取組みについて 現地視察：県産材を使用した公共建築物2箇所

・「森林づくり流域協議会」の開催

地域における森林環境税事業の適正な運営のため、森林づくり流域協議会では、流域内のNPO等が行う森林づくり提案事業の審査や事業成果の検証等を行った。

流域協議会	内 容	開催回数
大分中部・大分南部 大分西部・大分北部 (4流域)	・「森林づくり提案事業」(公募事業)の 審査、実績の検証 ・森林環境税事業地の視察、意見交換 等	計13回

・「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」の開催

外部委員から提言や助言を受けビジョンの実現を推進するために設置した「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」では、生産林・環境林の区分や低コスト育林(造林)、竹林の活用・整備などのビジョンのテーマに沿った取り組み状況並びに今後の計画について検討し、ビジョンの効果的な実施を図った。

内 容	開催回数
・生産林、環境林の区分や低コスト育林(造林)等の各テーマの取組状況の検討等 ・森林づくりビジョンの推進方法の検討等	1回

3 成果

(1) 豊かな国の森づくり大会の開催

多くの県民に森づくり活動を体験してもらうことで、森の役割や、森林づくりの重要性について理解を深めることができた。

(2) 新たな森林づくり推進体制整備事業

第三者機関である「森林づくり委員会」や「森林づくり流域協議会」等で、森林環境税活用事業の成果検証や、次年度事業の内容について意見を聴取し、県民の意見を取り入れることで、森林環境税を適正に運用することができた。

4 今後の課題と取組

多くの県民に森林環境税や森林づくりに対する興味を持ってもらうため、森づくり大会の内容などを工夫し、引き続き県民総参加の森林づくりを推進する。また、森林づくり委員会等を通し、県民の意見を取り入れ、森林環境税の適正な運営を行う。次世代の大分森林づくりビジョン推進会議では、生産林候補地の検証等を行う。

Ⅲ－１０ おおいたの森林づくり広報推進事業

【森との共生推進室】

１ 実施主体 大分県

２ 実施事業の概要

（１）現状と課題

県政モニターアンケート調査の結果、税制及び税活用事業の認知度が低かったため、すべての県民で守り育てる意識の醸成という面で、県民への周知が十分とは言えない状況である。

（２）目的

森林環境税を広く県民に知ってもらい、「県民総参加の森林づくり」の意識醸成を図るため、各種媒体を利用した広報活動を行う。

（３）事業内容

①マスメディア等による広報

- ・ 県庁ホームページによる情報提供（随時）
- ・ 新聞広告 7 回（森林環境税事業の P R、事業募集の広報等）
- ・ スマホ観光 P R アプリに「もりりん」が登場

②その他の広報活動

- ・ 森林環境税パンフレットを作成し、イベント等で配布（6,000 枚）
- ・ 森林環境税事業の実績報告書を、市町村等へ配布、HP で公開した。
- ・ マスコットキャラクター「もりりん」着ぐるみを各種イベントに貸出し、森林・林業、森林環境税に関する P R を行った（もりりん貸出し回数：43 回）。
- ・ 「農林水産祭」や「森づくり大会」において森林環境税に関するコーナーを設置し、森林環境税の P R を行った。また、来場者を対象に森林環境税の認知度等に関するアンケート調査を実施した。

３ 成果

新聞広告や情報誌、テレビなどで森林環境税に関する広報を行い、森林づくりに関する様々な情報を提供した。もりりん着ぐるみ貸出し回数は、前年度より 6 回増え、東京、福岡など県外で県産材や乾しいたけ P R に活用した。

４ 今後の課題と取組

森林環境税の導入や用途について知らない県民が未だに多くいることから、今後もアンケート等を通じて認知度の把握を行う。また、HP の内容の充実を図り、タイムリーな情報発信のほか、キャラクターを活用し、各種イベント等での P R を実施する。

５ 実施状況写真

大分駅でゆるキャラ集合



各種イベントへの参加



森林環境税パンフレット



農林水産祭 森林環境税コーナー



芸人とYouTubeに出演



Ⅲ－１１ 新たな育林技術等研究開発事業

【森との共生推進室】

１ 実施主体

NPO等の団体、県

２ 実施事業の概要

（１）現状と課題

森林の公益的機能を持続的に発揮していくためには、既存の育林技術に加えて、低コストで効果的な育林技術の研究開発や森林資源の新用途開発等が課題である。

（２）目的

森林の適正管理を確保するため、森林環境の保全を目的とした効果的な育林技術の開発や、木材の新たな需要拡大等を目的とした用途開発を支援する。

（３）事業内容

「災害に強く、生物多様性に配慮した森林の整備」に資するもの、「低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用」に資するものを公募テーマとして募集し、各実施主体の試験研究および調査にかかる経費を助成する。

３ 成果

※各取組の詳細は、次ページ以降に記載

４ 今後の課題と取組

森林・林業を取り巻く情勢が厳しさを増す中で、管理の行き届かない森林が増加し、公益的機能の低下が危惧されている。今後も引き続き、効果的な育林技術の研究開発と木材の新用途開発等に取り組み、森林の適切な管理を推進し、公益的機能の保全を図る。

５ 実施状況

番号	実施主体	事業名称	実施期間	26年度補助額
1	大分市佐賀関地域里山再生振興協議会	地域資源(ヤブツバキ)を活かした里山再生	H25～H27	351千円
2	森林保全課 治山班 砂防課 砂防班	木製型枠利用促進事業	H24～H26	406千円

(番号1) 新たな育林技術等研究開発事業成果取りまとめ票

研究課題名	地域資源(ヤブツバキ)を活かした里山再生																																																												
事業主体名	大分市佐賀関地域里山再生振興協議会																																																												
責任者(職、氏名)	(会長)大分短期大学学長 田代 洋丞 (事務局長) 大分短期大学 園芸科教授 吉野賢一																																																												
研究期間	平成25年度～平成27年度 3ヶ年																																																												
研究開発費	351,786円(森林環境税 351,000円、自己資金等 786円)																																																												
研究目的	大分市佐賀関地域を対象に産・官・学連携協働による、地域資源(ヤブツバキ)を活かした研究開発を行うとともに、里山の再生振興を図る。																																																												
研究内容	- 開発した試作品(ドレッシング・シロップ)の、一般食品成分分析、安全性分析、賞味期限設定分析を行い、食品としての安全性を確保する。 - 地域におけるヤブツバキの優良系統を選抜するための毎木調査(着果状況)を行う。 - さらに、優良系統を選抜するための毎木調査(開花調査)を行う。 - 新たに商品開発した、ネーミングを行う。 - 里山の再生・振興を図るためのシンポジウムを開催する。																																																												
研究成果	1. 一般食品成分分析結果・ドレッシング 100g <table border="1"> <tr> <th>水分</th><th>タンパク質</th><th>脂質</th><th>灰分</th><th>炭水化物</th><th>エネルギー</th><th>ナトリウム</th><th>食塩相当量</th><th>アミノ酸</th><th>糖酸</th><th>酢酸</th></tr> <tr> <td>67.4g</td><td>0.6g</td><td>7.3g</td><td>1.2g</td><td>22.2g</td><td>160kcal</td><td>412mg</td><td>1.05g</td><td>0.2g</td><td>1.5g</td><td>1.14g</td></tr> </table> 2. 一般食品成分分析結果・シロップ <table border="1"> <tr> <td>49.7g</td><td>0.1g</td><td>0.1g</td><td>0.1g</td><td>200kcal</td><td>2.3g</td><td>5.8mg</td><td>—</td><td>0.78g</td><td></td><td></td></tr> </table> 3. 安全性分析 <table border="1"> <tr> <th></th><th>ヒ素</th><th>鉛</th><th>カドミウム</th></tr> <tr> <td>ドレッシング</td><td>検出せず</td><td>検出せず</td><td>検出せず</td></tr> <tr> <td>シロップ</td><td>検出せず</td><td>検出せず</td><td>検出せず</td></tr> </table> 4. 賞味期限設定分析 製造年月日 H26年3月9日 製造後9ヶ月目の最終分析結果 <table border="1"> <tr> <th></th><th>一般細菌数(生菌数)</th><th>大腸菌</th><th>カビ数</th><th>酵母数</th></tr> <tr> <td>ドレッシング</td><td>300以下/g</td><td>陰性/0.1g</td><td>陰性/0.1g</td><td>陰性/0.1g</td></tr> <tr> <td>シロップ</td><td>300以下/g</td><td>陰性/0.1g</td><td>陰性/0.1g</td><td>陰性/0.1g</td></tr> </table> 5. 自然林植生調査 関崎半島 調査月日: H26・8月30日 10m×10m ヤブツバキ植生本数 71本(0.35～7.5m) 6. 優良系統選抜を目指した結実・開花調査 域内10地区・48樹の毎木調査 (樹高・胸高直径・着果状況・花弁色彩度等) 古木(大径木)22本選抜調査(樹高・胸高直径等) 7. 新商品のネーミングの公募と採用 222名に公募(短大学生・佐賀関中学校・道の駅等) ネーミングの採用(H27・3・20決定) ○関椿ドレッシング ○関椿シロップ  左＝ドレッシング 右＝シロップ	水分	タンパク質	脂質	灰分	炭水化物	エネルギー	ナトリウム	食塩相当量	アミノ酸	糖酸	酢酸	67.4g	0.6g	7.3g	1.2g	22.2g	160kcal	412mg	1.05g	0.2g	1.5g	1.14g	49.7g	0.1g	0.1g	0.1g	200kcal	2.3g	5.8mg	—	0.78g				ヒ素	鉛	カドミウム	ドレッシング	検出せず	検出せず	検出せず	シロップ	検出せず	検出せず	検出せず		一般細菌数(生菌数)	大腸菌	カビ数	酵母数	ドレッシング	300以下/g	陰性/0.1g	陰性/0.1g	陰性/0.1g	シロップ	300以下/g	陰性/0.1g	陰性/0.1g	陰性/0.1g
水分	タンパク質	脂質	灰分	炭水化物	エネルギー	ナトリウム	食塩相当量	アミノ酸	糖酸	酢酸																																																			
67.4g	0.6g	7.3g	1.2g	22.2g	160kcal	412mg	1.05g	0.2g	1.5g	1.14g																																																			
49.7g	0.1g	0.1g	0.1g	200kcal	2.3g	5.8mg	—	0.78g																																																					
	ヒ素	鉛	カドミウム																																																										
ドレッシング	検出せず	検出せず	検出せず																																																										
シロップ	検出せず	検出せず	検出せず																																																										
	一般細菌数(生菌数)	大腸菌	カビ数	酵母数																																																									
ドレッシング	300以下/g	陰性/0.1g	陰性/0.1g	陰性/0.1g																																																									
シロップ	300以下/g	陰性/0.1g	陰性/0.1g	陰性/0.1g																																																									
普及性	地域資源(ヤブツバキ)を活かした新商品(ドレッシング、シロップ)を開発することにより、地域振興・活性化に繋がる。																																																												
課題	- 新商品販売PR、消費者ニーズの把握、商品生産に必要なヤブツバキ花弁量の把握等 - ヤブツバキの植樹による良好な里山景観の形成等																																																												

(番号2) 新たな育林技術等研究開発事業成果取りまとめ票

研究課題名	木製型枠利用促進事業
事業主体名	大分県農林水産部森林保全課治山班・土木建築部砂防課砂防施設整備班
責任者(職、氏名)	主幹 谷山 健一 ・副主幹 松田 隆
研究期間	平成24年度～平成26年度 3ヶ年
研究開発費	406千円(森林環境税 406千円、自己資金等 ー千円)
研究目的	公共土木事業での木材利用促進は、これまで様々な製品を開発・施工を行ってきているところであるが、使用量は頭打ちの状態である。 また、施設の維持管理やライフサイクルコスト(老朽化等)を考えた場合、恒久的な構造物への使用については検討の余地がある。 このため、森林保全課治山班において、地域材を使用した木製型枠を開発し、治山ダムについて使用できる目処がついたところである。(平成24年度からはすべての治山ダムにおいて使用している) 今後、他分野での使用が可能か検討するため、構造が似ている砂防ダムでの試験施工を行い、広範囲での使用を展開していくことを目的とする。
研究内容	1. 砂防課より、砂防ダム建設現場(フィールド)を提供してもらう。 2. 実際に砂防ダムでの使用を行う。 3. 問題点・課題の抽出を行う。 4. 通常の型枠との単価差を補う。
研究成果	1. 複数の現場で使用を試みたところ、可能であった。 2. 治山ダムでの使用量が増えていることと、労務単価が高くなっているため、当初の予定より単価差は縮減していた。 3. 出来映えについても、問題は無いものと考えられる。  【宇佐土木事務所】(継続) 施工場所：宇佐市安心院町 施設名：内川野川 砂防ダム 【別府土木事務所】(継続) 施工場所：杵築市 施設名：内川野川 砂防ダム 【玖珠土木事務所】(継続) 施工場所：玖珠郡九重町 施設名：中城川 砂防ダム
普及性	1. 複数の施工現場を確保出来たことで、より普及性が高い事が確認された。 2. 継続の箇所においても施工が可能であることが確認された。
課題	1. 縮減しているとはいえ、依然、通常型枠との単価差は発生している。 2. 他部局の職員への木材利用に関する理解が必要である。 3. ダム高が高くなった場合について、検討する必要がある。